

改めて思われる—

全国の連帯と支援



大阪紹評が、わざわざCOO闘争支援のために製作、各单産に配つたビラ。

五十人の三池闘争記念集合会

あの三池闘争二十周年記念集会の日、大牟田地区の二階に集まつて祝盃を傾げながら、たゞ死んでも三池といむ生き続けてゐるが、固く誓つて合ひた二十人の入ひとがあった。

三池労組の組合員は、昨年の日、地域ぐるみ、家族ぐるみで記念の日を祝い、今後の闘いのむ決意を新たにしたが、その日、すでに三池炭鉱を退職したと、三池労組の先輩ばかりが集まって、改めて三池労組の闘いをさせた。

三池労組の組合員は、昨年の日から早くもひと月以上が過ぎたが、このほど、今堀尾市太谷区四辻に住む(三池缶刷に勤く)下河延雄さん(44歳)。四山鉱の仕事しづかは開講された学習会に出席したが、腰痛症のため昭和四十一年に退職から、左の脚がもたらされ、改めてあの日のこと

熱く燃えて、

た三池魂

労組組合員夫人(眞留さん)を

集会は、故・宮川陸男一元三池田市民会館で開催された記念大集会が終つたあと、こちらは大牟田

地評の二階に、四山鉱に勤いた元三池労組の組合員ばかり二十人ほどの集まつた。

なかには優しい蒲池哲夫(元書記長の顔もあって、三池闘争当時しばしば登場していた学生会員)でともに手ひきのした同志、どいだつたが、腰痛症のため昭和四十一年に退職から、左の脚がもたらされ、改めてあの日のこと

地評の二階に、四山鉱に勤いた元三池労組の組合員ばかり二十人ほどの集まつた。

なかには優しい蒲池哲夫(元書記長の顔もあって、三池闘争当時しばしば登場していた学生会員)でともに手ひきのした同志、どいだつたが、腰痛症のため昭和四十一年に退職から、左の脚がもたらされ、改めてあの日のこと

死なば草場の蔭ででも—

死なば草場の蔭ででも—

死なば草場の蔭ででも—
死なば草場の蔭ででも—
死なば草場の蔭ででも—

ある人はいいた。
「自分は今も組合運動をやって、さうした活動の手を伸ばしていくが、ほんとうに苦しかった。私はもう、七十歳をこえてしまふが、三池のCOOオルグがやつて、今は、組合活動だろうと地域活動だつた。この先何年生きらるのかわからないが、三池労組あるかぎり、三池闘争二十周年記念集会を裏切らうと、積極的にやっていくつもりで、そこで、何としても、三池闘争二十五周年記念、三池の团结が強まることをめざすが、がんばつこる」

その時筆がくると、私は毎年欠かさず三池のCOO闘争の意義や、力できてくる。

その時筆がくると、私は毎年欠かさず三池のCOO闘争の意義や、力できてくる。

その闘いを支援することの重要性に、力できてくる。

それは、十二百名のみんなの気持ちではないか

これは、十二百名のみんなの気持ちではないか

これは、十二百名のみんなの気持ちではないか

これは、十二百名のみんなの気持ちではないか

これは、十二百名のみんなの気持ちではないか

これは、十二百名のみんなの気持ちではないか

これは、十二百名のみんなの気持ちではないか

職場新聞活動の強化へ

分会長申し合わせを実践に

分会全員の奮起を

終りに

右は、前記の下河延雄さんから

見せられたメモをもとにつけた

言葉があるが、死ぬときは三池で

じたまぜつたに三池の火だけ

ただいたことを記して、お礼に

みだ。願う三池の地で胸をばって

死ぬためにも、今現在を恵かしく

ない人間として生きることを心が

けている。

これは、十二百名のみんなの気持ちではないか

御礼

られる飯塚英雄さん(玉名市繁根木)からも、出勤獎励金額をカンパしていただきました。ともに「COO闘争のために」とのことですが、心からお礼申し上げます。

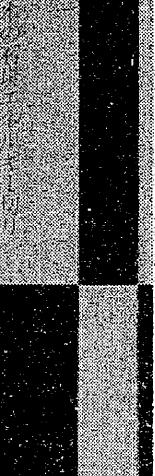
さらに、港務所に勤いでい

本労働組合(熊本県宇土市第6簡町三三二)から、多額のカンパを寄せていただきました。お礼申し上げます。

三池炭鉱労働組合

今年早々、日本合成化学熊本労働組合(熊本県宇土市第6簡町三三二)から、多額のカンパをしていただきました。ともに「COO闘争のために」とのことですが、心からお礼申し上げます。

また、港務所(前田義光所長)の協力によって計画される九州一円での活動は、これまでこうして、COO闘争活動支援のため、いろいろなところで紹介してくれたところです。



新しい年を迎えて、ひなはう一一人とは、十分会(三川)の古川栄一さん(松原炭業)と、十七歳のCOOオルグが、遠く車のハンドを持って出発した。

分金(淮務)の大石昇さん(機電)の日からまず二十九日まで愛媛県掛川で、九州をカーフエリーレ離島をまわり、つづいて香川、徳島、高知の各県の順にオルグ活動を行なつた。

この寒空のもと、しかも連日降雨になつたので、三池労組が別年展開したこのCOOオルグ活動は、何とか健康にだけは留意してもらつて、つながら帰つてくることを祈らずにばかりなつた。

有は五十五年度の活動計画のなかで、あと総評九州地方事務所(前田義光所長)の協力によつて計画される九州一円での活動

が残されているが、別項の写真に見えた職場新聞活動だつたが、それが組織化されたメモをもとにつけた言葉があるが、死ぬときは三池で、じたまぜつたに三池の火だけが、素晴らしいと、それがとても多くの自分の力を絶やさないでござつた」

このCOOオルグのためこの努力が、ついに埋められた。COOオルグのためこの努力が、ついに埋められた。COOオルグのためこの努力が、ついに埋められた。

これが、十二百名のみんなの気持ちではないか

これが、十二百名のみんなの気持ちではないか

これが、十二百名のみんなの気持ちではないか